

広土会新聞

第18号

2014.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

巻頭言「広土会の強靱化に向けて」



広土会会長
十河 茂幸

島 重章名誉教授から広土会会長を引き継ぎました。専門はコンクリート材料・施工であり、長年建設会社の技術研究所に所属した経験を活かして、広土会に微力ながら貢献したいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

広土会創立45周年記念事業

昨年8月に、広土会45周年記念事業を開催しました。茶道上田宗箇流家元上田 宗問氏の特別講演会は満席となり、その後の記念祝賀会は約300名が参加し、成功裏に終わりました。ここにご報告申し上げます。会には鶴 衛理事長・学長をはじめ荒谷 寿一同窓会長、平口 洋衆議院議員も来賓として参加され、会員相互の親睦を深めることができました。広土会は、昭和43年10月に結成されて以来、約4500名の大きな組織になりました。次の区切りとする創立50周年では、全国で活躍さ

れている広土会会員が一堂に集うことを期待しています。

東日本大震災の影響

大震災から3年が過ぎましたが、仮設住宅から出られない被災者や、処分しきれないがれき、放射性物質の最終処分問題、止むことのない汚染水問題など、大震災の傷跡は今も消えることはありません。そんな中、アベノミクス、国土強靱化計画により、建設業は多忙を極める状況ですが、縮小した設備、技術者はこれらの対応に苦慮しています。国土を守る義務を果たすためにも、土木の役割を社会に示す必要があります。都市デザイン工学科は、土木技術者を育成する学科であり、先輩諸氏のご支援をお願い致します。なお、今年度は大震災の被害を見た入学希望者が増加しています。

インフラの老朽化対策

国土の強靱化には、災害に強く、サステイナブルなインフラ整備が必要ですが、これまでに建設された社会資本は必ずしも健全とは言えません。国家

予算を効率的に活用するには、合理的な社会資本の維持管理が喫緊の課題となります。新規建設の高耐久化、既設構造物の延命化の技術が要請されています。昨年度、広島市内でコンクリート片のはく落事故が数件発生しました。早急な点検、必要に応じた延命化の措置、そしてそれらを判断できる診断士の養成が急がれます。行動するのは今でしょう。

広土会の強靱化

昨年、長年教鞭をとられてきた中山隆弘名誉教授が退職され、構造工学がご専門の中村一平教授が着任されました。学生の質の低下を問題視する人も多いと思いますが、指導力で技術者を育てることができます。経験を重ねることで優れた技術者に育つことは、多くの方の知るところでしょう。大学での教育には限りがあるため、広土会のご支援をお願いします。老若男女が参加しやすい環境により、広土会が強靱となることを祈念します。



新任のあいさつ



工学部 都市デザイン工学科
教授 中村 一平

2013年4月に都市デザイン工学科に構造系教員として着任しました中村一平です。よろしく、お願い致します。

小生は、生まれも育ちも大阪です。昭和48年(1973年)に立命館大学理工学部土木工学科を卒業し、その後、大阪大学大学院に進学しました。そこでは、故小松定夫先生の研究室に所属し、構造工学を学びました。その研究室には、昨年度末に本学を退職されました中山隆弘先生が助手として勤務されており、公私共々、いろいろとお世話になりました。大学院での研究テーマは、斜張橋の耐風安定性に関する研究で、本州と四国を結ぶ長大橋を想定したものでした。

大学院修了後は、橋に携わる仕事がしたくて阪神高速道路公団に勤めました。そこでは、都市高速道路の計画・設計・施工、そして維持管理など幅広い仕事に携わることが出来ました。当時は、高度成長の真っただ中で、関西新空港の開港を控えて、阪神高速湾岸線などの建設が最盛期を迎えており、斜張橋やアーチ橋などいろいろな形式の橋が数多く建設されていました。多くの技術者は、長大橋などを建設することに憧れていましたが、小生は、維持管理に従事することを希望しました。その理由は、建設は華々しいものの一過性であり、維持管理は地味ではあるものの構造物がある限り、継続して実施される奥の深い技術であるとの先輩からのアドバイスによるものでした。今、考えると、その当時から維持管理の大切さは分かっていたものの、多くの方がまだ興味を示していないことに取り組んだために、技術士資格や学位を取得できたと思っています。

また、公団在職中の2年間、国際協力事業団(JICA)からカンボジア王国公共事業運輸省に道路計画および橋梁設計の専門家として派遣されました。ご承知の通り、任国は内戦によりすべてが疲弊しており、そこでの得た経験により、人生観が大きく変わりました。

その後、平成14年(2002年)に、金沢工業大学に勤務することになりました。そこでは、構造工学のみならず、建設事業を如何に円滑に実施するかを考える建設マネジメントも担当しました。建設業界を取り巻く、極めて厳しい環境の中で、そこでの課題を見付けて、解決することは極めて重要なことです。

広島工業大学では、小生の経験を生かして、「学問を通じて、社会を認識させる」を念頭に社会貢献できる学生を育成する所存です。そのためには、我々教職員の力だけでは不十分です。今後とも、引き続き、広土会会員の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

地縁も血縁もない広島に来ました。仲良くして下さい。

支部だより



大阪での25年間

関西支部
河内 正彦(21期生)

私は平成元年に土木工学科を卒業し、卒業と同時に就職先である大阪へ来て早25年が経ちました。大学卒業までは広島を出て生活することがなかったので、就職活動時は軽い気持ちで大阪への就職を決め、3年ぐらい勤めて広島へ帰ろうと考えていたのですが、あっという間に25年という月日が経ってしまいました。

私は、当初鋼橋の製造メーカーに就職したのですが、当時はバブル絶頂期で今は違って非常に景気が良く、高速道路を含む新設橋梁の建設が盛んでした。25年の間にバブル崩壊、阪神淡路大震災、橋梁談合事件、建設事業の縮小など、鋼橋を取り巻く環境は悪くなる一方でした。私がいた会社も、景気悪化のあおりを受けて入社13年目で倒産してしまい、その後も再就職はすぐにできたものの運が悪いのか再就職先もなかなか安定せず、また倒産や合併吸収などの不運に見舞われ、短いスパンで転職する羽目になっています。

しかし、最近ではこのような状況が、私にとっては良かったのではないかと考えています。就職当初は終身雇用を疑う余地もなく黙々と橋を造る仕事に励んでいましたが、会社を変える度にいろいろな客先や人と関わり、鋼橋メーカーでは得ることのできなかった情報や技術を習得することができ、自分のスキルも上がったと実感しています。おかげで技術士試験にも合格することができました。

現在は下請けの設計会社に所属して3年になりますが、鋼橋の設計、橋梁点検、補修設計などに携わっており、どちらかというと維持補修業務がメインになってきました。鋼橋メーカー時代は設計部に所属していましたので、現場に長期間に渡って出ることはありませんでしたが、維持補修業務を行ううえでは現場作業はかせません。

今思い起こせば、在学中はそんなに勉強が好きな方でもなかったので、就職してからデスクワークをしている自分を想像することができず、漠然とですが外で働いているイメージでした。そう考えると今こそ学生時代のイメージを体現できており、充実した毎日を送っております。

けっして平坦ではなかったこの25年間を表現するには、いくら書いても書ききれない感じですが、このような場を与えていただいたことに感謝いたします。また、広島工業大学の益々の発展と広土会の皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



近況報告

島根県支部
石飛 満利(35期生)

私は、第35期(平成15年3月卒業)の石飛です。島根県に就職して早いもので11年が経過しようとしています。

大学を卒業した頃の頃、就職して10年経てば一任前になっているだろうと思っていたことを記憶しています。しかし、実際にその年になってみれば、携わる業務は今だに初めてやることばかりで、建設業の分野の広さと奥深さを痛感している毎日です。

最近では、環境影響評価なるものに初めて携わらせていただきました。建設業に関わっている限り、自然環境に対して多かれ少なかれ負荷を与えてしまいます。近年は観測技術やコンピューターが発達し、数値シミュレーション等によりその影響を事前に把握することも、物によっては可能になってきています。しかし、シミュレーションの前提となる条件をどのようにまとめ、設定するかにより結果が大きく変わる危険性があるなど、影響評価の難しさを知りました。建設業に携わる限り、自然の偉大さを認識し、謙虚な気持ちで付き合っていかなければならないと改めて感じている今日この頃です。

さて、平成25年11月2日(土)に島根県松江市内において総会及び懇談会が開催されました。広島工業大学から島先生にご出席いただき、大学の近況や建設業の話で盛り上がりました。諸先輩方とお話できる数少ない貴重な機会でもあり、有意義な時間を過ごさせていただきました。

最後になりますが、広土会皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。



集合写真



近況報告

広島西支部
佐田 孝敏(14期生)

昭和57年(1982年)卒業の佐田です。5年掛けて工大を卒業し、以来現在勤務している(株)竹中土木に入社し32年が経過しました。

入社後19年間は工事に所属し、内勤・外勤を経験し、その後営業部に配属されて今日に至っています。現在広島支店営業グループで官庁営業を担当しており、今回近況報告という事で入札の現状についてお話をさせていただきます。

現在、国関係の入札方法は、ほとんどが「施工体制確認

KATO
Construction Co., Ltd.

株式会社 加藤組

〒728-0013 広島県三次市十日市東一丁目8-13
TEL(0824)63-5117 FAX(0824)63-5100
http://www.kato-gr.com



株式会社 神崎組

取締役社長 神崎 文吾

本社 姫路市北条口三丁目22番地
TEL 姫路(079)223-2021(代表)
FAX 姫路(079)281-8191
支店 大阪
事業所 敦賀・三木・但馬・岩国

道路埋設設計

建設大臣認定施設

P Cボックスカルバート ザ・ウォール(H=5.0m)



株式会社 マシノ

本社 〒733-0822 広島市西区庚午中1-19-23 (082) 507-2757(代)
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府270 (082) 432-4132(代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (084) 926-8855(代)
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1130 (083) 973-3533(代)
山陰支店 〒895-0003 島根県江津市松川町下河戸188 (0855) 55-0124(代)
本 店 〒699-5133 島根県益田市神田町015 (0856) 25-2380(代)
工 場 広島・江津・益田

型総合評価方式」と呼ばれるものです。「入札を価格だけでなく、価格以外の要素と価格を総合的に評価して落札者を決定する総合評価方式の中で、品質確保の体制・施工体制の確保を確認し、施工内容を確実に実現できるかどうかを審査し評価する方法」という事になっていますが、これでは解りづらいので説明しますと、落札者を決定するのに従来の入札では、金額の一番低い者が落札していましたが、総合評価入札方式では、評価点を入札価格で除した値（評価値）の最も高い者が落札者となります。ここで評価点とは以下のように決められています。

評価点＝（①標準点 100 点＋②加算点（技術評価点 30 点～ 40 点）＋③施工体制評価点 30 点）となります。具体的に説明しますと

①標準点：要求要件を実現できると認められる者に 100 点が与えられる。（通常ほとんどすべての者が 100 点を与えられます。）

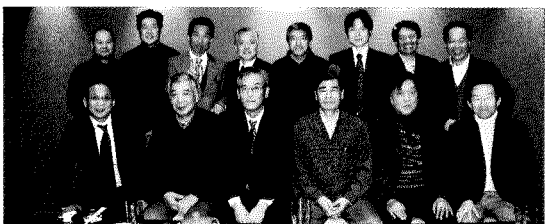
②加算点（技術評価点）：工事の特性を踏まえた発注者からの要求のある技術提案（具体的な施工計画）の得点（30 点～ 40 点）。各社が全精力を傾注する所であり、現地調査・地元の情報収集・設計における特異点又発注者の欲するキーワード等をいかに説明するかに掛かっています。当社の場合大阪本店に営業推進部を設けて西日本を担当しています。満点又は得点トップグループにいないと受注が難しく、会社の実績・経験・英知を集めて高得点を目指します。

③施工体制評価点：品質確保の実効性（15 点）、施工体制確保の確実性（15 点）。ここでの 30 点は調査基準価格以上ならば加点されます。逆にいえば、調査基準価格より低い入札になった場合、まず加点無しとなり受注はほとんど無理となります。

調査基準価格は、予定価格の概ね 88%～ 89%で、精度向上を目指し行政開示資料の入手・質問等による単価設定の根拠算出等行います。入札金額決定は原価との兼ね合いになりますが、営業は受注出来る金額を、工事は原価を重視し、よく紛糾しつつの金額決定となります。

技術と積算の両輪がマッチした時に、見事受注の花が咲きます。年に数本しか咲かない花ですが、毎年確実に咲かせる事が営業の本分と心に留め置き日々努力していきたいと思っています。（しかし現実には厳しく、過酷な物です。）

最後になりましたが、広土会の益々の発展と会員皆様の一層のご活躍をお祈り致します。



集合写真



近況報告

県東部支部（株）青木組
近森 直道（45期生）

私は平成 25 年卒業の近森と申します。今年度 4 月より株式会社青木組に勤務しております。

4 月に入社後、約 1 ヶ月の本社研修を経て、工事現場に配属された最初の頃は、何をしたらいいのか全くわからず、反省の日々でした。

先輩や上司に色々なことを手取り・足取り教えてもらい、だんだん仕事に慣れてきましたが、覚えることが多く、繰り返し指導を受ける毎日です。技術的なことだけでなく、低レベルなミスもあり、自分の社会人としてのレベルの低さに、改めて失望させられている次第です。

それでも、物が完成していく様は、何とも言えず楽しく達成感を味わうことができ、これから頑張ろうという気持ちになります。

まだまだ、経験も少ないので現場を任せられるようになるには時間がかかりますが、日々の勉強を怠らず資格の取得を目指しております。今年は、2 級土木施工管理技士の試験を受験することができるので、合格するよう頑張るつもりです。そして、将来的には、1 級土木施工管理技士の資格を取り、1 日でも早く現場責任者として任せられるようになりたいです。

広島工業大学を卒業し、入社してあっという間に 1 年が過ぎた気がします。これからも、1 日 1 日を大切に、前向きに努力を積み重ねていきたいと思います。

おわりになりましたが、広土会皆様のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げます。



45周年記念事業報告

広土会創立45周年記念事業開催報告

広土会創立45周年記念事業実行委員会幹事
廣本 忠典（15期生）

1. 広土会

広土会は、昭和 43 年 10 月に建設技術の向上、会員の親睦等を図ることを目的に広島工業大学工学部土木工学科の卒業生、在校生及び教職員を構成員として結成された組織です。土木工学科は、建設工学科、都市建設工学科等を経て現在都市デザイン工学科となっております、広土会は都市デザイン工学科内の本部をはじめ全国に 11 支部を置き、会員数も 4500 名を越える大きな組織に発展しております。会員は、全国はもとより世界各地において、建設業界をはじめ数多くの分野で指導的役割を果たすとともに、社会・経済の発展に大きく寄与しているところです。

2. 記念事業開催の趣旨

広土会創立 45 周年を迎え、これまでの歴史を振り返り、会員の親睦を深め、今後の広土会とその会員がより一層社会に向けて飛躍し、21 世紀の明るい未来を力強く歩いていくことを祈念して開催いたしました。

3. 記念事業の内容

（1）記念講演会

日 時：平成 25 年 8 月 31 日（土）17:00～18:00
場 所：リーガロイヤルホテル広島 3 F 音戸の間
演 題：もののふの庭 ―上田宗箇 乱世が生んだ美―
講 師：上田宗箇氏（茶道 上田宗箇流 家元）
聴講者：約 120 名

（2）祝賀懇親会

日 時：平成 25 年 8 月 31 日（土）18:30～21:00
場 所：リーガロイヤルホテル広島 4 F ロイヤルホール
来 賓：鶴衛理事長・総長 荒谷同窓会会長 平口洋衆
議院議員
参加者：約 300 名

4. これからの広土会

昭和 63 年 9 月に開催しました広土会創立 20 周年記念事業から 30 周年、35 周年、40 周年に続き、今回、45 周年記念事業を開催しました。今回の 45 周年記念事業は、平成 30 年に迎える創立 50 周年記念事業へのステップアップとして、広島支部及び広島西支部が中心となって広島県内及びその周辺を対象に企画したものです。昨今の厳しい社会・経済情勢、特に会員の大部分が所属する建設産業を取り巻く環境は非常に厳しい中、それでも約 300 名の会員が集結し、記念事業は盛況のうちに終了いたしました。あらためて『広土会』のパワーを実感したところです。社会・経済の先行きはまだまだ不透明ですが、広土会は、建設産業の一端を担う集団として、技術向上のための情報を交換し、会員相互間で交流を深め、毎年新しい会員を迎えながら発展を続けていきます。われわれ広土会会員は、諸先輩方が培ってきた広土会の歴史に敬意をはらうとともに、さらなる飛躍に向けて若い力を加え 50 周年へとつなげていきたいと考えています。



大地と大地に明日を築く・・・

AOKI

MSA-QS-2865

総合建設業

株式会社 青木組

代表取締役社長 坂口 慎二

本社 〒722-0035 広島県尾道市土堂二丁目八番十四号（青木ビル）
TEL (0848) 23-3131 FAX (0848) 22-8371
東京本店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-4-2
KDX茅場町ビル
TEL (03) 3665-9621 FAX (03) 3665-9622
営業所 福山・岡山・川崎・東北

心の映像カタチにします

建設クリエイター

総合建設業

株式会社 栗本

代表取締役社長 前川 拓也
〒733-0035
広島市西区南観音 7 丁目 14 番 20 号
TEL (082) 293-8500
FAX (082) 295-8231
【営業所】 岩国・安芸高田・東北
<http://www.kurimoto-gr.co.jp>



株式会社 鴻治組

〒736-0082
広島市安芸区船越南一丁目 2 番 6 号
TEL : (082) 822-5211
FAX : (082) 824-0675



広士会45周年記念事業について

広島支部

橋本 勝司（12期生）

私は、昭和54年度土木工学科卒業の橋本でございます。
昨年度から、広士会広島支部の副支部長を拝命し、微力ながらお手伝いさせて頂いております。

昨年は、広士会創立45周年記念事業が、8月31日、リーガロイヤルホテル広島に於いて、約290名の関係者が参加する中、盛大に開催されました。

当日は、記念事業の講演会として、公私とも多忙中、茶道の上田宗箇（そうこ）流家元、上田宗岡（そうけい）先生にお越しいただき「乱世が生んだ美」と題しまして、講演をしていただきました。

この講演会では、戦乱の武将として、また、茶人として名をはせた上田宗箇の生涯を顧みながら、我々が普段あまり接することの無い、茶道、茶室、庭園といった日本古来の文化の一端に触れることができ、大変興味深く聴講させていただきました。

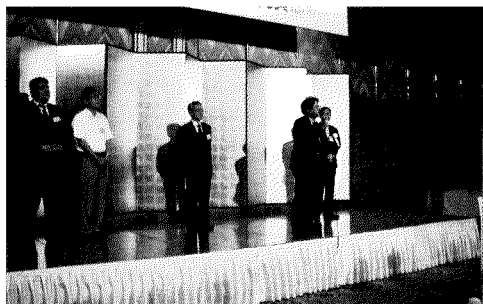
特に、上田家は、広島に深く関わられ、名勝として知られている、広島縮景園の作庭が、上田宗箇流によるものということも新たな発見であり、機会があれば、講演の中で紹介された茶室や庭園等を改めて訪れてみたいと、皆様思われたのではないのでしょうか。

講演終了後は、学校法人鶴学園理事長・総長である鶴衛様、広島工業大学同窓会会長の荒谷壽一様、衆議院議員の平口洋様を来賓に迎え、華やかに祝賀懇親会が行われました。私も、学校卒業以来、久しくご無沙汰していた同級生にも再会し、お互いに近況を報告するなど、有意義な時間を過ごすことができました。

この45周年記念事業が、大成功のうちに終わることができたのも、開催に当たり、日々忙しい仕事の傍ら、記念事業の準備委員会を立ち上げ、運営等に積極的に携わっていただいた関係者の御苦労を忘れてはいけないと思っています。この場をお借りしまして、大変有難うございました。

また、この度の祝賀行事には、近隣はもとより、遠方からも大勢の卒業生の方々がお祝いに駆けつけていただき、改めて、広島工業大学広士会の団結力を再確認したところ です。

なお、5年後の平成30年には、節目の年となります、広士会50周年記念事業が控えており、この度の記念事業を踏まえ、更に素晴らしい周年記念事業が開催されることを心からお祈り申し上げます。



事務局だより

広士会の活動は会員の会費納入で運営されています。会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をよろしくお願い致します。

この度、広士会のホームページをリニューアルいたしました。アドレスは下記のとおりです。広士会45周年記念事業等閲覧するには、パスワードが必要となっております。パスワードは下記のとおりです。入力間違いないようお願いいたします。

また、広士会新聞は会員の情報誌です。今年度は、6期生ー40周年、16期生ー30周年、26期生ー20周年、36期生ー10周年を迎えます。記念祝賀会等を行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。

HPアドレス：<http://www.kodokai1968.jp/> パスワード：kodokai2014

FAX (082) 921-8976 E-mail: kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに



代表取締役 木森 卓史

本 社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
アーバンビュクラオタワ7F FAX(082)511-4521

営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国・九州
事業所 黒瀬

明るく伸びる



株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 光 暁

本 社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33-61 TEL(082)253-6161
FAX(082)254-4581

支店・営業所 松江・三次・安芸高田・東広島



山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805
TEL(082)-232-6471 FAX(082)291-2233
<http://www.landingsanyo.co.jp/>



ヒューマン・コンシャス。
それがわたしたちの原点です。

MASUOKA
Architectural Contractors Inc.



株式会社 増岡組

広島本店 / 〒730-0045 広島市中区鶴見町4番25号 TEL082-504-5050
呉 本 店 / 〒737-0051 呉市中央1丁目6番28号 TEL0823-21-1441
<http://www.masuoka-g.co.jp/>